

新年あけまして おめでとうございます

今年も皆さまのご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。

さて、今年は安曇野市が誕生して3年目の年を迎えます。合併1年目は「新市計画元年」とし、総合計画を始めとするいくつかの基本方針、実施計画の策定を進めました。そして昨年は、検討した計画を具体化し、実行に移す「新たな創造から飛躍を目指す年」と位置づけ、着実な歩みを始めた1年となりました。

まず、市のまちづくりの方向性を明らかにする総合計画が、市議会12月定例会で議決されました。「北アルプスに育まれ ころろ輝く 田園都市 安曇野」を将来都市像とするこの計画を柱に、今後、各種事業を進めてまいります。

また、昨年は市民の皆さまと行政が協働・連携をさらに深めるきっかけとなる出来事も多くありました。5月に区長会設立総会が開かれました。市からは、相互援助による自主防災組織結成の支援を行い、今までに65%の区が自主防災

組織を立ち上げていただきました。また、昨年は地域活動などを支援する「つながりひろがる地域事業補助金」を新設し、59団体の交付が決まりました。今後、地域のつながりをさらに発展させ、広げていくことを皆さまとともに目指します。

国際交流事業については、5月にスイスのサースフェーから、また、7月には中国の五三街道から訪問団が安曇野市を訪れました。さらに11月には旧豊科町から交流が続いているオーストリアのクラムザッハから訪問団が訪れ、末永い交流を誓い、姉妹都市提携書署名式を行いました。これからの国際交流はテーマを持ちながら、さらに住民交流の輪が広がることが期待されます。

本年は「子どもから高齢者までが安心、安全、元気で暮らす環境づくり」を重点課題の一つに位置づけ、交流学习センター、保育施設、小中学校の整備、土地利用についての検討などを行ってまいります。

さらに、庁舎建設については、市本庁舎等建設検討委員会を立ち上げ、庁舎の必要性、規模、機能、場所などを広く検討しています。将来の市にとっての重要な課題ですので、多くの皆さまのご意見をお聞きしながら、一定の方向性を固めていく必要があると考えています。

安曇野市という苗木がしっかりと地に根を張り、枝を伸ばし成長していきますよう市民の皆さまとともに、市政に取り組んでまいります。皆さまからの一層のご支援、ご協力を市政発展のためにお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

安曇野市長

平林 伊三郎

市では、安曇野市のまちづくりの基本理念と市民一人ひとりの自主的行動の規範となる「安曇野市民憲章」を制定しました。制定にあたっては、市民の皆さんから寄せられた意見をもとに、総合計画審議会で検討を重ね、草案を作成しました。昨年12月21日に可決され、平成20年1月1日付けで告示し決定しました。今後は、市民憲章が市民の皆さまの暮らしの中で親しまれ、実践していただけるよう努めてまいります。

安曇野市民憲章

安曇野市は、北アルプスの麓(ふもと)に広がり、美しい自然や豊かな歴史・文化に恵まれたまちです。

わたしたちは、ここに生きる幸せと誇りをもって、お互いに尊重し合い、より住みよいまちをつくるために、この憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくります
- 一 学ぶ心を育て、文化のかおるまちをつくります
- 一 思いやりを大切にし、健康であたたかいまちをつくります
- 一 働くことを喜び、活力のあるまちをつくります
- 一 支えあいの輪を広げ、安全で安心なまちをつくります

特集◎

市長と語る会

市長・教育長が直接市民の皆さんからご意見を伺う

「市長と語る会」が昨年末、市内5会場で開催されました。今月の特集は、その一部をお伝えします。(次ページへ)

